

《コーチと選手との関係》

- ・たかが飛び込みの指導であるけれど大きな視野でとらえる必要がある。



人間づくりという観点で指導自体をとらえる。 →→ ・長期展望が見えて来る
・ほめることが出来てくる
・指導ができる



教えるだけではなく教えられることが多い。ことに気付く



人間としての付き合いができ、コミュニケーションが生まれる
(選手の精神的・身体的状態を把握できる)



- ・一心一体・・・選手の思い、考えが読み取れる。

これはとくにコーチに必要である。逆に選手もコーチの気持ちや考えを読み取ることができる。これを指導に使う。気持ちをわざと読み取らせて選手を追い込んで行くことができる。

また、読み取られないようにするときもある。選手を突き放すときであり自立させるときである。選手としての自立を目指す。飛ぶのは自分なのだという意気込み・・・それを協力して行くのがコーチである。すべてをコーチを頼るような選手はダメ。

- ・ささいなことで「カッ・・・」となることがなくなる。長い目で見られるようになる。焦らなくなる→《目標がしぼれてくる。》



何年後のどの大会で何位になろう。



そのための練習計画ができてくる。

◎ よって日常生活では

選手 \in コーチ = 人間づくり

飛込競技に関することは

選手 \Rightarrow コーチ = 演技

◎ コーチ \neq 審判員

コーチングにおいて審判員的な指摘が大きな割りを占めてはいないか。

・宙返りでひざが割れる。コーチング→ひざを開くな。

というだけではいけない。

宙返りのスピードをえるために開くのであり、種目を成立させるためには宙返りの回転を早く終了させることが必要。

コーチと選手はひざを開かないでより早い回転が得られる方法を考えて行かないといけないし、そのための練習を取り入れていかなければならない。けっして審判員のような指摘だけで終わってはいけない。